

◆授業設計のポイント◆

- ・ コミュニケーションツールとしての英語を深く理解させるための工夫（生徒の姿の具体化）
- ・ 思考を広げ深める対話的な言語活動の工夫（ALTとのTeam Teachingの工夫）
- ・ 学習プロセスの構成による見通しと振り返りの充実

## 英語科学習指導案

学 級	2年5組(男子17名・女子18名・計35名)
場 所	2年5組教室(2年校舎4階)
授業者	教 諭 松 元 里 紗
	A L T Andreas Birzer
	A L T Brianna Coulson

### 1 単元名 Sunshine English Course 2 Program 2 A Trip to Finland

### 2 単元について

本単元は、フィンランドにホームステイに行くことになった由紀が、マイクにその経緯や予定について話す内容である。基本表現は未来の予定を伝えるときに使うbe going to や willを扱う。また、will については未来の状態や動作について「~でしょう」と言う場合の用法についても学習する。今回は、ALTの友人からの依頼を受け、鹿児島観光をするためのプランを考え、提案するという課題を設定した。観光プランを作成する上で、未来表現を用いることができると考える。また、自分たちのプランが適切であるかを確認するためにALTへの中間発表を行い、プランについての質疑応答を経てよりよいプランを作成できるようにしたい。

本学級の生徒は、積極的に英語を聞いたり話したりすることのできる生徒が多く、英語学習を楽しもうとする雰囲気がある。しかし、即興で自分の思いを英語で表現することができるようになるまでは至っておらず、自ら英語を発信することを苦手としている生徒が多い。そのため、帯学習の中で基本表現を使って繰り返し対話練習をし、英語を話すことに抵抗がなくなるよう配慮したい。

指導にあたっては、まずは本文の内容理解を通して、予定を表す表現と意志を表す表現を適切に使い分けることができるようにさせたい。そして、グループ内やグループ同士での対話の場面を設定し、プランを練り上げていく過程を経て、相手に応じた適切な提案ができるようにしていきたい。

### 3 単元の目標

- (1) ペアやグループのメンバーと協力し、間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
- (2) ALTの友人の意向を理解し、未来表現を含めて鹿児島観光のプランを作成することができる。
- (3) ビデオレターやALTとの質疑応答を通して、ALTの友人の意向を理解することができる。
- (4) 観光プランを提案する表現や、be going to や will などの未来表現の用法を理解している。

#### 4 単元の指導計画（全8時間）

【Goal of Program 2：ALTの友人に、鹿児島観光のプランを作成しよう。】（は本時扱い）

時	主な学習活動	主な技能の活用	【 <input type="checkbox"/> 】生徒の姿の具体化 ○ 思考を深め広げる対話的言語活動の工夫 □ 学習プロセスの構成と振り返りの充実
第1時	言語活動1（ALTの意向を捉える） ALTの友人からのビデオレターを見て、意向を理解する。単元のゴールの確認	L	□ ビデオレターを視聴し、意向を理解する。 【気付き】 ○ どのようなプランを立てるかグループで考える。
第2時	Program 2 ① be going to 本文の内容理解 プラン会議①	R S	○ 予定や計画について言えるようにする。
第3時	Program 2 ② will 本文の内容理解 プラン会議②	R S	○ これからすることについて言えるようにする。
第4時	Program 2 ③ will 本文の内容理解 プラン会議③	R S	○ 「～でしょう」と未来のことについて言えるようにする。
第5時	言語活動2（プランを立てる） 考えたプランをまとめ、発表する練習をし、グループ内でアドバイスをを行う。	L + S	○ 相手にとって魅力的なプレゼンをするためには、どのような言葉が必要か考える。
第6時	言語活動3（中間発表） ALTの先生に、グループ単位でプレゼン及び質疑応答を行う。	L + S	○ 相手の反応を見ることでプレゼンの状況について客観視する。情報の取捨選択を行い、プランの再構成を行う。【納得】 □ プレゼン・質問を終えて情報を整理し、振り返りを行う。
第7時	言語活動4（プランの再構成をしよう。） 必要な情報を精選し、プランを作成する。グループ内で練習を行う。	W + S	○ ALTの友人の意向に沿ったプランが作成できているかを考える。
第8時	言語活動5（ビデオレターの作成） グループ単位でプランの発表会及びビデオレターの作成を行う。	L S	□ 他のグループと比較し、相手の意向に沿ったプランが作成できたかを確認する。【意志】

#### 5 単元における評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
1 ペアやグループのメンバーと協力し、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 2 意欲的にプランの提案をしようとしている。	1 未来表現を含めて鹿児島観光のプランを作成することができる。 2 相手の意向を理解した観光プランを提案することができる。	1 新しいALTの先生の意向を理解することができる。 2 教科書の本文の内容を理解している。 3 プランについての質問を理解し、適切に応答することができる。	1 be going to や will などの未来表現の用法を理解している。 2 提案をするために必要な表現を理解している。

## 6 本時の実際（6／8）

### (1) 題 材 Program 2 A Trip to Finland

### (2) 目 標

- ア グループのメンバーと協力し、間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
- イ ALTの友人の意向を踏まえた鹿児島観光のプランを発表することができる。
- ウ 観光プランについての質問を理解し、適切に応じることができる。
- エ 提案する表現や、未来表現の用法を理解している。

### (3) 授業設計の工夫

#### ア コミュニケーションツールとしての英語を深く理解させるための工夫 研究の視点1

本単元では、他者に配慮する必然性がある学習課題として、「ALTの友人へ鹿児島観光のプランを提案しよう」というゴールを設定した。その上で単元を通じた学習のなかで「気付き」「納得」「意志」にあたる場面を設定し、生徒の姿の具体化を図った。ALTの友人からのビデオレターを受けて、その友人の意向に合わせた観光プランを作るためにはどのような情報を取り入れればよいのかという「気付き」から本単元のゴールを提示し、本時ではALTに中間発表としてプランの提案を行うことで、自分たちのプランを客観的に見つめなおす「納得」にあたる場面を設定した。最終的には観光プランの提案をビデオレターで作成することで更なる学習につなげようとする「意志」を持つところまで、生徒の意識を高めていきたい。深い理解に至った生徒の姿を、【中間発表で得た意見をもとに情報を取捨選択し、ALTの友人の意向を踏まえた観光プランを提案することができる】こととする。

#### イ 思考を広げ深める対話的な言語活動の工夫 研究の視点2

ペアやグループの形態で対話活動を行うにあたって、対話の相手は生徒同士で行うことが多いが、ALTと直接対話する機会を設けることで、生徒が英語で話す必然性が生まれると考える。ALTとの対話の中では、自分たちのプランをできるだけ正確に伝えたいとする強い思いから、より良い表現や態度はどのようなものであるかを意識させることができ、思考の広がりや深まりが期待できる。

また、質疑応答の活動においては、聞かれたことに対して即興で応じるための手立てとしてTalking Sheetを活用することとした。

#### ウ 学習プロセスの構成による見通しと振り返りの充実 研究の視点3

生徒が見通しをもって活動をするために、本単元では第1時で単元のゴールを提示し、教科書の本文の学習と平行して「プラン会議」を行う時間を設定した。生徒は設定された課題を理解した上で学習プロセスの各場面における言語活動を行うことにより、目標を達成するために必要な言語知識や内容をより理解しようとすることができ、見通しを持った学習ができると考える。

また、振り返りの充実のために、リフレクションシートを用いることとした。本時でどのような学びができ、ペア活動やグループ活動ではどんなことが分かったのかをまとめさせることによって、次の学びへつながる意欲を持たせることが期待できる。

## (4) 展 開

時間 (分)	学習過程	主な学習活動	○ 指導上の留意点 ◎ 評価
5	1 Greetings 2 Warm-up	1 あいさつをする。 2 「Quick Q and A」をする。	○ 英語学習の雰囲気をつくる。 ○ 帯学習として基本表現を繰り返し練習させることによって、英語を活用しやすくする。
40	3 Today's Goal  4 Activity	3 本時の学習目標を確認する。  観光プランの中間発表をし、相手に伝わるか確認をしよう。  4 中間発表としてALTに作成した観光プランを発表する。 ① 教師のモデルを聞く。  「気付き」 研究の視点1 ・ 相手の反応を見ながら提案をしよう。 ・ 一方的に話すよりも、問いかけをしたら良さそうだ。  ② 活動の流れの説明を聞く。 ・ それぞれのALTが4グループを順番に回り、グループごとに発表を行う。 ・ 待ち時間には他グループとのsharingを行う。 ③ グループごとに中間発表を行う。  研究の視点2 ②論理的思考力（レベル2） 自らの考えとその根拠や理由づけを説明することができる。  「納得」 研究の視点1 ・ 相手に必要な情報を伝えることができた。 ・ より魅力的なプランにするためには何が必要だろうか。 ・ 細かい情報まで知っておこう。  ④ 中間発表で気づいた情報やもらったアドバイスを整理する。	○ 目的意識を持って活動に参加できるようにする。  ○ どのような発表を行えばよいのかを理解させ、本時の見通しをもたせる。  ○ 生徒が見通しをもてるように活動の流れを提示する。 ○ 待ち時間に他グループとのsharingを行い、互いにアドバイスをを行う。 ○ グループ内で協力し、一人一回以上は英語での発表や質疑応答ができるようにする。 ◎ 意欲的にプランの提案をしているか。(ア-2) ◎ グループで協力し、相手の意向に合わせたプランの提案ができているか。(イ-2) ◎ プランについての質問を理解し、適切に応じているか。(ウ-3)
5	5 Group Work  6 Consolidation 7 Notice 8 Greetings	5 グループ内で観光プランの再構成を行う。  「意志」 研究の視点1 ・ 理由をもっと加えてみよう。 ・ 楽しそうにプレゼンができるよう練習しよう。  6 本時の学習のまとめをする。  研究の視点3 7 次時の予告を聞く。 8 終わりのあいさつをする。	○ 中間発表や他グループとの情報共有から得たことをまとめ、よりよいプランにできるよう考える。  ○ リフレクションシートを用いて、次時へつながる意欲をもたせるようにする。